

4. 経済学部

(1) 経済学部 of 教育目的と特徴	4-2
(2) 「教育の水準」の分析	4-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	4-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	4-14
【参考】データ分析集 指標一覧	4-16

（１）経済学部の教育目的と特徴

１．経済学部の教育目的

本学部は岡山大学第３期中期目標に掲げている「人類が蓄積してきた知と、最先端の知とを総合的に継承するとともに、世界に向けて創造的な知の成果と技の結実を発信し、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くこと」という目標を踏まえ、経済学・経営学・会計学に関する専門的な学術地域を教授するとともに自ら研究することを促し、現在および将来の社会的要請に応えうる人材を育成することを目的としている。

２．経済学部の教育特徴

この目的を実現するため、本学部は柔軟かつ多層的なカリキュラムや教育体制を構築し、様々な取り組みを推進している。

（１）2016年度より学生が効果的に学習できるよう、「系統履修」及び「横断履修」をサポートしている「ユニット・モジュール制」を導入した。また、その制度に関連するカリキュラム構成の高度化を努めるとともに、学生の学修状況を可視化するため、各学生の学修到達度シートを学部独自で作成し、学生指導に活用している。

（２）４年間を通じた少人数教育を充実させている。具体的には１年生の必須科目である学部ガイダンス科目「修学の方法」の個別指導と３・４年次の「卒業研究」（演習型、必修）に加え、１・２年次向けに少人数・双方型の研究科目「基礎研究」を開講し、全教員が学生の専門研究を１年次からサポートしている。

（３）実社会、地域社会とのつながりを重視した科目を様々な形において開講している。同時に、文理融合・産学連携・海外派遣というキーワードで「社会人基礎力」のうち主とした「チームで働く力」などを涵養する教育プログラムを設けている。

（４）グローバル人材の育成に向けて、本学部は独自の海外派遣制度を構築し、部局間の交流協定に基づく派遣事業を推進するとともに、個別の学生ごとに海外で学ぶことを支援する制度を導入した。また、学部としてアクティブ・ラーニングの手法に基づいた授業をはじめ英語教育体制を整え、４年間の学生生活で継続して英語能力の向上に努められるようカリキュラムを工夫している。

（５）リカレント教育や、社会人や職業人が学部生として大学で学ぶことを可能にするため、夜間主コースの入学定員に社会人枠を設けており、社会人・職業人学生のために夜間の時間帯だけで卒業要件単位を揃えるカリキュラムや勤務上の都合に応じて学修計画を柔軟に立てることができる長期履修制度も用意している。

こうした取り組みは「国際社会や地域社会と連携した実践的教育、世界の異文化を深く体験するグローバルな教育を含む異分野連携教育の展開による「学びの強化」に取り組む」という岡山大学第３期計画に示された教育方針に応じるものと考えられる。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 6404-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 6404-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 6404-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 6404-i3-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年度に、ユニット・モジュール制を導入し、カリキュラムの体系的な構築を行った。ユニット・モジュール制は、内容に応じて専門科目を小科目群（ユニット）に分類し、さらにユニット同士をモジュールと呼ばれる科目系統に編成していくことで、各科目の特徴や科目間の関連性を明確にし、学生が目的に即した科目群を履修しやすくするために始めた取り組みである。（別添資料 6404-i3-3）
[3.1]

- 2012年度より経済学部と工学部は、学生の社会人基礎力を育成するため、課題解決型学習の授業『実践コミュニケーション論』を文理融合かつ産学連携で開講している。この授業では、前半にコミュニケーション基礎スキル（PREP法、ファシリテーション技法など）を身につけさせた上で、後半に課題解決型学習に取り組ませることでより高い教育効果を得ている。2012年度の開講当初は、研修を専

岡山大学経済学部 教育活動の状況

門にする民間業者4社からコミュニケーション基礎スキルの教授方法などについてサポートを受けていたが、第3期中期目標期間の2016年度から完全内製化へと移行した。(別添資料 6404-i3-4) [3.2、3.3]

- 2019年度より経済学部は、本学部の主要な取り組みである『実践コミュニケーション論』と海外学生派遣を融合した先駆的な授業『実践グローバル・ビジネス・コミュニケーション』を開講した。協力企業(2019年度はナカシマプロペラ)から与えられた実践的な課題にチームで取り組む課題解決型学習(PBL: Project Based Learning)の授業であり、第4学期にチームで英語を用いて課題に取り組み、春休みに海外(ベトナム)で企業へのプレゼンテーションを英語で行う。(別添資料 6404-i3-5) [3.2]
- 経済学部のガイダンス科目『修学の方法』は1年次生の必須科目であり、出席で主に評価する。大学生活、授業履修説明、学部授業における各ユニット・モジュールの説明、公務員系職業の説明(県、県警、国税の担当者による授業)、学習・研究(アカデミックスキルの基礎)に関する授業(テキストに基づいたオムニバス講義)等のようにバラエティに富んでいる。(別添資料 6404-i3-6) [3.4]
- 教養教育科目と専門科目、さらには高校の授業科目と専門科目を関連付けることを目的として、2016年度から、1年次向けに14科目(各1単位)を専門基礎科目として新規に立ち上げ、選択必修としている。(別添資料 6404-i3-7) [3.4]
- 3・4年次の「卒業研究」(演習型、必修)を効果的に行うため、2016年度から、1・2年次向けに少人数・双方型の研究科目「基礎研究」を開講し、全教員が学生の専門研究を1年次からサポートしている。(別添資料 6404-i3-8) [3.4]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料 (別添資料 6404-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 6404-i4-2)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数 (別添資料 6404-i4-3)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料 (別添資料 6404-i4-4)
- ・ 指標番号5、9～10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生が、学部または指導教員が主体的に作成した演習プログラム、または学生の自主的に作成した案に基づいて指導教員が演習プログラムとして組み直した

岡山大学経済学部 教育活動の状況

プログラムに参加し、海外の教育機関もしくは教育を目的とした施設・場所において演習、調査、会議参加、研修、発表・報告、視察、インターンシップ等を行い、事前指導を含めて、帰国後の報告書（海外での活動を示すエビデンスを添付）提出、公開報告会の参加・報告により単位認定を行っている。（別添資料 6404-i4-5）[4.1]

- 経済学部では、2019 年度より産学連携の実践的教育と海外研修による異文化理解教育の 2 つの教育方法を組み合わせた新規授業科目『実践グローバル・ビジネス・コミュニケーション』を開講した。（別添資料 6404-i3-4（再掲））[4.1、4.2]
- 1・2 年次生を対象とした基礎研究と 3・4 年次生を対象とした卒業研究は、少人数の演習形式で実施されており、アクティブ・ラーニングが導入されている。このため、これらの演習形式の授業を除いた授業科目を対象に、アクティブ・ラーニングの導入比率について分析を行った。過去 3 年間におけるアクティブ・ラーニングを実施している授業科目の割合は、2017 年度 $43/68=63(\%)$ 、2018 年度 $27/39=69(\%)$ 、2019 年度 $46/96=48(\%)$ となっている。これらの結果は、少なく見積もってもおよそ半数の授業科目に関してアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が行われていることを示している。本学部の授業では、履修者数が 200 人を超える大人数での授業もかなり多いことを考慮すると、積極的に授業にアクティブ・ラーニングを取り入れていると言え、高く評価できる。今後は、大人数での授業においてアクティブ・ラーニングを導入している授業を参考にするなどして、さらにその比率を高めていきたいと考えている。（別添資料 6404-i4-6）[4.1]
- 教員の授業の改善を目的として、毎年「ピアレビュー」と「FD セミナー」を実施している。「ピアレビュー」とは、同僚の教員の授業を見学するもので、「FD セミナー」とは同僚の教員による授業改善のためのセミナーである。ここ数年は、授業評価アンケートの総合評価が高かった教員、ティーチング・アワードを受賞した教員、およびアクティブ・ラーニングを積極的に行っている教員の授業を見学したり、セミナーの講師になっていただいたりして授業改善のためのノウハウを共有している。本学部ではここ数年教員数が激減し、これに伴い、200 人を超える大人数での講義も増えているが、今後は、大人数の講義であるにも関わらず、授業評価が高かったり、アクティブ・ラーニングを導入したりしている授業についてそのノウハウを共有し、全体としての授業改善を図っていきたいと考えている。（別添資料 6404-i4-7）[4.1]
- インターンシップは、近年、景気の良い動向を反映して、就学の事前経験というよりも直接的な採用活動に関連度を強めている。10 数年前より希望者（近年の説明会参加者は 30～40 名弱）はやや減少したものの、公務員系志望の増加を

岡山大学経済学部 教育活動の状況

反映して、民間企業等よりも県庁・市役所・公的団体等へのインターンシップが恒常的に多い。また、複数のインターンシップ先に行く学生もいる。（別添資料 6404-i4-8） [4.2]

- 経済学部の産学連携 PBL 授業『実践コミュニケーション論』では、情報通信技術(ICT)などの多様なメディアを積極的に活用している。受講生とスチューデント・アシスタントが中心となりホームページを企画・制作した。その結果、受講希望者が増加し、より意欲的な受講生を確保することができるようになった。また、SNS (Facebook)を利用し、毎回の授業の進行状況などを発信したことで、受講生のモチベーションアップに繋がり、協力企業とのスムーズな情報共有も行えた。さらに、日本経済新聞および地元紙（山陽新聞）でこの授業について繰り返し報道され、学内外からの関心を集めた。（別添資料 6404-i3-3（再掲）） [4.2、4.3]
- 経済学部は、グローバルな視点を持ち、Society5.0 時代での地域や世界舞台で活躍できる高度な実践人を育成するために、限られた人員と資源を最大限に有効に活用し、「経済理論・政策」、「経営・会計」と「国際比較経済」という3つの新しい学科目に再編することを推進している。こうしたことにより、国際的に通用する経済学・経営学の先端的な教育・研究の追求、地域活性化のための地域企業、地域行政に対する知的貢献、そして、グローバル化する経済・社会の要請に応えるための日本を含めた世界経済の経済動向・構造の比較分析の強化という3つの柱とした研究・教育を目指している。（別添資料 6404-i4-9） [4.4]
- 社会科学としての経済学部の授業においては、理論ばかりではなく、現実社会の実態にも目を向ける必要があり、企業の協力を得て「資本市場の役割と証券投資」（講師：野村證券株式会社）の開講を 2003 年度から続けている。（別添資料 6404-i4-10） [4.6]
- ㈱日本旅行赤い風船事業部と協働で、マーケティングを学ぶ日高ゼミの学生は、瀬戸内エリア同社商品を対象に山口大マーケティングゼミと商品化を巡り企画内容を競う、産学連携型マーケティング・インカレコンペに参加した。学生はマーケティングの理論を活用しながら各種調査を行い、企画案を練り、最終発表で同社取締役をはじめ部門横断的な社員の審査を受け、高く評価された企画案だけが商品化される。商品化決定後は実際の商品化プロセスにも携わる。本ゼミでは、三年連続商品化の成果を得た。考えた案を社会人に発表して終わりではなく、実際の商品化を目指し、またその後の商品化プロセスにも関与する点に特徴がある。目指しているのは、学んだ理論を使いながら、社会の現実に向き合い課題を発見して協働で課題解決を図ることのできる「マーケティング実践人」の育成である。（別添資料 6404-i4-11） [4.6]

岡山大学経済学部 教育活動の状況

- 学修成果を可視化するため、2016 年度からは学部独自の学修到達度評価システムを構築して学修達成段階に応じた成績優秀認定を行っており、2018 年度末時点でモジュール別は 49、横断型は 27、学士力 1 級は 35、夜間主コースは 14 の認定実績がある。（別添資料 6404-i4-12） [4. 7]
- 教員の授業の評価とその改善を目的として、毎年各授業について「授業評価アンケート」を実施している。各項目は 5 段階で評価され、総合評点が 4 以上であれば概ね「良い」授業とされる。過去数年間での総合評点が 4 以上の授業の割合が表（別添資料 6404-i4-13）に示されている。2016 年度 70.6%、2017 年度 68.2%、2018 年度 59.0%、2019 年度 67.2%となっており、2018 年度に一度落ち込んだが、2019 年度には回復に転じている。この原因として、2018 年度に大幅に教員数が低下したことが考えられる。教員数の減少に伴い、個々の教員の業務負担が増え、授業の準備にあまり時間が割けなくなると同時に、大人数の講義が大幅に増えたことに起因しているものと考えられる。2019 年度に回復しているのは新入教員が増えたことも一因と考えられ、さらに 2020 年度には数名の新入教員が入ってくるので、この点では回復基調が今後も続くことが期待される。また、授業評価アンケートの結果を踏まえて、個々の教員が改善点を見つけることや、ピアレビューや FD セミナーを通じて、授業評価の高い教員の授業を参考にすることは授業の改善に資するものと考えられるので、今後も続けていく必要がある。（別添資料 6404-i4-13(再掲)） [4. 0]

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 6404-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 6404-i5-2～4）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 6404-i5-5）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 6404-i5-6）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 所定の取得単位数を下回った学生に対しては、指導教員より個別指導を行っている。指導では、学生自身に成績不振の原因について内省を促すとともに、具体的な改善方法を学生自身に考えさせている。これは、学生の主体性を引き出すことで、指導の実効性を高めるためである。本学部の指導の特徴は、本学部が独自に作成した指導時チェックリストと「学生支援ハンドブック」を用いていること

岡山大学経済学部 教育活動の状況

である。これにより、教員間で指導に関する共通認識を持つことができ、指導の質が担保できる。また、精神的な問題を抱える学生など、指導教員が対応・判断に困るケースについては、学生支援委員会が指導教員をサポートしていることも本学部の特徴である。（別添資料 6404-i5-2（再掲）、別添資料 6404-i5-3（再掲）、別添資料 6404-i5-4（再掲））[5.1]

- 本学部では、障がい学生支援に熱意・関心のある教員が一貫して継続的に支援を担当することで、支援ノウハウの蓄積が進み、全学の支援専門員との信頼関係構築を築いてきた。それにより、修学上問題のある学生に対しては、本学の支援担当者が全学の支援専門員と二人三脚できめ細やかに支援を行うことができている。入学当初は不適応症状のため卒業の見込みが全く立たなかったアスペルガー症候群や ADHD といった発達障害のある学生を卒業・就職に結びつけることができたのは、本学部の手厚い支援の成果といえるだろう。[5.1]
- 学生の学習意欲を向上させる目的で、毎年、資格試験等に関わる講演会を複数行っているが、なかでも経済学会主催の大講演会は大学外の著名人を講師に招聘し、その時々を経済問題をテーマに講演会を実施している。（別添資料 6404-i5-7）[5.1]
- 会計学に関する学習意欲向上の観点から、公認会計士講演会を開催した。2016 年度は倉敷市内で開業している本学卒業の公認会計士が登壇し、2017 年度以降は日本公認会計士協会中国会による講演会（共催：岡山大学経済学部）として、大手監査法人所属の公認会計士が登壇した。（別添資料 6404-i5-8）[5.1]
- 税務に関する学習意欲向上の観点から、広島国税局及び岡山県酒造組合によるセミナーを開催した。税務行政や酒税法に関する講演が行われた。（別添資料 6404-i5-9）[5.1]
- 学修成果を可視化するため、学部独自の学修到達度評価システムを構築して学修到達度シートを作成し、2016 年度から運用している。指導教員は学修到達度シートによって各学生の履修状況と特徴を把握し、学生の履修指導にあたっている。（別添資料 6404-i5-10）[5.2]
- 経済学部では、キャリア支援として、社会人による講義（経済経営特殊講義、現代地方自治経営論、現代中小企業論、資本市場の役割と証券投資）、アクティブ・ラーニング（実践コミュニケーション論、各国経済・ビジネス事情 in English 1. 2）、海外留学支援（国際交流、交流イベント等の実施含）などの取り組みを行なっている。（別添資料 6404-i5-11）[5.3]

＜必須記載項目 6 成績評価＞

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 6404-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 6404-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 6404-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教員が授業に関して個々の学生の成績評価を行うに当たって、授業の内容や履修者数など、様々な違いがあるため、望ましい評価の方法も異なっている。本学部では、経済学のみならず、経営学、会計学の授業もあり、持ち込み不可で期末試験を行うことが適切な授業もあれば、持ち込み可が望ましい授業もあり、また、レポートの課題を与えて各自が文献を調べて自分の考えを論述するのが望ましい授業もある。6404-i6-4(平成28年度 第一学期期末試験持ち込み許可理由(昼)等)は、個々の教員が個々の授業において成績評価の方法を工夫しながら、様々な方法で多角的に評価を行っていることを示している。(別添資料 6404-i6-4(再掲)) [6.1]

＜必須記載項目 7 卒業（修了）判定＞

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 6404-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 6404-i7-3～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業判定については、3月初旬の教務委員会で4年次以上の全学生の修得単位を卒業要件に照らして慎重に判定し、臨時教授会でそれらの判定を全教員で再度確認する等、複数の確認体制をとっている。[7.1]

＜必須記載項目 8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 6404-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 6404-i8-2）

岡山大学経済学部 教育活動の状況

- ・ 指標番号 1 ～ 3、6 ～ 7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 県内外からの高等学校からの学部訪問受入ならびに県内外への高等学校への教員派遣は、いずれも教員が経済学部の概要説明や模擬講義を行い、高校生ならびに教師との質疑応答を行う。2018 年度は、受入 19 校、派遣 5 校を実施、2019 年度（実施予定分を含む）は、受入 18 校、派遣 4 校を実施した。（別添資料 6404-i8-3）[8.1]
- 経済学部について高校生と保護者に対して幅広くアピールする機会として、毎年 8 月にオープンキャンパスを実施している。内容は、学部概要、講義科目、入試、卒業後進路など多岐にわたる。加えて、高校生に対し経済学部をより身近に感じてもらうために現役の経済学部学生によるスピーチと質疑応答も取り入れている。2018 年度の参加者は約 1,400 名、2019 年度は約 1,500 名である。（別添資料 6404-i8-4）[8.1]
- 高大連携事業の一環として、スーパー・グローバル・ハイスクール事業の実施校、地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施校へ、高校生の研究活動のサポートのため、教員と学生を派遣し、高校生の研究活動へアドバイスを年に複数回行う。2018 年度、2019 年度ともに派遣校は 2 校である。（別添資料 6404-i8-5）[8.1]
- 経済学部では、2021 年度入試から夜間主コース入学者選抜方法を変更予定である。夜間主コースの一般選抜（前期日程）において、個別学力試験の教科は、英語の 1 科目のみであったものを英語・国語・数学からの 1 科目選択式とする。この変更により、評価尺度の多元化を図るとともに、受験生に多くの選択肢を与えることで、多様な受験生の獲得を目指す。夜間主コースの一般選抜（後期日程）の募集を停止し、その募集人員を主に学校推薦型選抜に移行させる予定である。この変更により、出願書類に加えて、小論文と面接など多様な評価方法を活用し、丁寧な入学者選抜の取組を加速・拡大するとともに、「学力の 3 要素」を多面的・総合的に評価する。（別添資料 6404-i8-6）[8.1]
- 卒業時における学業成績について、入学年度および入試区分ごとに調査を行なったところ、推薦入試入学生が入学時の学力に比して高い学業成績を修めているという結果を得た。このことから、岡山大学経済学部においては、「学力の 3 要素」を多面的・総合的に評価できる推薦入試が、進学後も意欲的に学修に取り組む学生を効果的に選抜できる入試区分であることが判明した。（別添資料 6404-i8-7）[8.2]

＜選択記載項目 A 教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数 （別添資料 6404-i4-3(再掲)）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- スーパーグローバル大学創成支援事業「PRIME プログラム：世界で活躍できる実践人を育成する！」の目標達成のため、大学の PRIME プログラムと学部の独自の ECB0（Economics Cross-Border Studies）プログラムの両軸で取り組んでいる。ECB0 は、学部で既存プログラムと新規開拓プログラムを合わせて 2018 年度に整備した海外留学制度である。2018 年度には日中韓三カ国相互交流、海外特別演習および基礎研究における海外特別研修などを通して、51 名の学生が海外研修活動を行っている。これに大学の PRIME プログラムへの参加者を合わせて 121 名の海外学生派遣に達している。（別添資料 6404-iA-1）[A. 1]
- 経済学部では、2001 年度より学部としての英語教育体制を整え、社会で即戦力となる実践的な英語能力（4 技能）の育成を目指し、4 年間の学生生活で継続して英語能力の向上に努められるようカリキュラムを工夫している。2013 年以降はアクティブ・ラーニングの手法に基づいた授業「経済英語 I、II」（TOEIC550 点以上）、「各国経済・ビジネス事情 in English 1、2」（TOEIC650 点以上）によっての上級レベルの学生の英語力向上を目指してきた。2016 年度以降、これらの授業は日本人学生、留学生の共修の場ともなっており、英語による異文化コミュニケーション能力の養成も図られている。（別添資料 6404-iA-2）[A. 1]
- 2018 年度に ECB0 プログラムの一環として実施した「ECB0（シンガポール・マレーシア）」研修と『実践コミュニケーション論』を融合して、2019 年度に『実践グローバル・ビジネス・コミュニケーション』を開講した。この授業により異文化理解力・語学力・社会人基礎力を涵養することでグローバル人材の育成を目指す。（別添資料 6404-i3-4(再掲)）[A. 1]

＜選択記載項目 B 地域連携による教育活動／産官学連携＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 経済学部では、地域連携教育活動として、「経済経営特殊講義」（講師：岡山経済同友会所属の経営者）、「現代中小企業論」（講師：岡山県中小企業家同友

岡山大学経済学部 教育活動の状況

会所属の経営者）および「現代地方自治経営論」（講師：岡山県庁・岡山市役所職員）を開講している。（別添資料 6404-iB-1）[B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、教員の授業内容・方法を点検・改善し、教育の質の維持・向上を図るための組織的な取り組み（FD 活動）を行っている。具体的には、学生アンケートを通じて授業内容・方法を改善するための資料収集、教員相互の授業参観（ピア・レビュー）の実施、教員による授業・演習の紹介（FD セミナー）などである。学生の主体的な学習を促す工夫は、個々の授業において数多く見られる。講義においても、学生から意見・質問を求め、教員のコメント・回答をフィードバックする試み、さらに双方向性を強化する科目も急増している。[C. 1、C. 2]
- FD 活動においては、本学部において教員の授業内容・方法を点検・改善し、教育の質の維持・向上を図るための組織的な取り組みを行っているが、教育プログラムの改善・向上を図るため、外部の有識者の方々から経済学・経営学・会計学教育に関する評価・助言を行っていただく外部評価委員会を 2019 年度に初めて実施した。（別添資料 6404-iC-1）[C. 1、C. 2]

<選択記載項目 D 高度専門職業人の育成>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 経済学部では公認会計士や税理士の養成を念頭に置き、体系的な知識が身に付くような会計教育を行っている。具体的には、初学者向けに専門基礎科目として会计学入門と簿記入門を開講した上で、専門科目として会计学モジュール内に会計理論 A、会計理論 B、簿記論の3つのユニットを配置し、会計理論と簿記の両方を学ぶことができるように工夫している。また、学習効率向上の観点から、教育のタイミングにも注意を払い、基礎的な会計学習から始まり、より上級の内容を順番に学習することができるように配当年次と開講学期を取り決めている。（別添資料 6404-iD-1）[D. 1]

＜選択記載項目E リカレント教育の推進＞

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 6404-iE-1）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 経済学部は全学において、夜間主コース教育を提供している数少ない学部の一つであり、社会人や職業人の学部生として大学での学びを可能にすることで、リカレント教育に大いに貢献している。経済学部の夜間主コースの入学定員に社会人枠を設けており、社会人・職業人学生のために夜間の時間帯だけで卒業要件単位を揃えるカリキュラムや勤務上の都合に応じて学修計画を柔軟に立てることができる長期履修制度も用意している。（別添資料 6404-iE-2）[E. 1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 6404-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 6404-ii1-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 入学時の英語外部検定試験においては、2016 年以降、550 点以上 750 点未満の学生が大幅に増加しており、その反対に 450 点以下のいわゆる英語を苦手とする学生層の顕著な減少がみられ、経済学部の学生の英語力が年々向上していることがうかがえる。また、外部検定試験によって2年次以降で単位を認定される学生も増加しており、学生が継続的な英語学習により更なる英語能力の向上を図っていることが確認できる。（別添資料 6404-ii1-3）[1.2]
- 第3期中期目標期間では、毎年、公認会計士試験合格者を輩出している。また、その合格者のうちの約8割は経済学部在学中に合格している。公認会計士試験合格者の平均年齢がおよそ25歳である点を考慮すると、極めて良好な結果である。（別添資料 6404-ii1-4）[1.2]
- 産学連携型マーケティング・インカレコンペにおいて、第一に、三年連続商品化という評価を連携企業から得た。これは、実践的な学びのなかで、マーケティングの理論をゼミ生自らが着実に「運用できる」ようになったことを示している。理論を「習得」して終わりではなく、自ら「運用」し、実際「成果を出せる」ことを示す指標である。第二に、ゼミ生が、継続的に業界大手・地域有力企業・自治体への就職を果たしている。これは、ゼミでの実践的な学びを通じた「実践人」の育成に対する実社会からの評価である。（別添資料 6404-i4-11(再掲)）[1.1]

<必須記載項目 2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 近年の就職状況は、景気を反映して、順調である。具体的に、進学者は、就職動向を反映することが強く従来それほど多くはない（指標番号 21）。次に、2018 年度の夜間主コースを除けば（進学者が4名いたため）、就職率は90%の半ば以

岡山大学経済学部 教育成果の状況

上を維持しており、高い水準にある（指標番号 22）。次に、職業別就職率は、学部特性を反映して、事務職への就職率がほぼ大半を占めており、この傾向に大きな変化はない。最後に、産業別就職率であるが、昼間コースについては、金融保険業、公務が圧倒的に高く、やや下がって製造業が続くという傾向に大きな変化はないが、夜間主コースについては、既に就労している社会人学生もいることから、年度によって異なるが、卸小売業、金融保険業、および製造業などの数値が高い。（別添資料 6404-ii2-1） [2.1]

岡山大学経済学部

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号 8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。